

神田明神文化交流館

Edo Culture Complex

No. 05-063-2020作成

新築
物販/飲食/集会場

発注者	宗教法人神田神社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

森と都市と人を繋ぐ建築

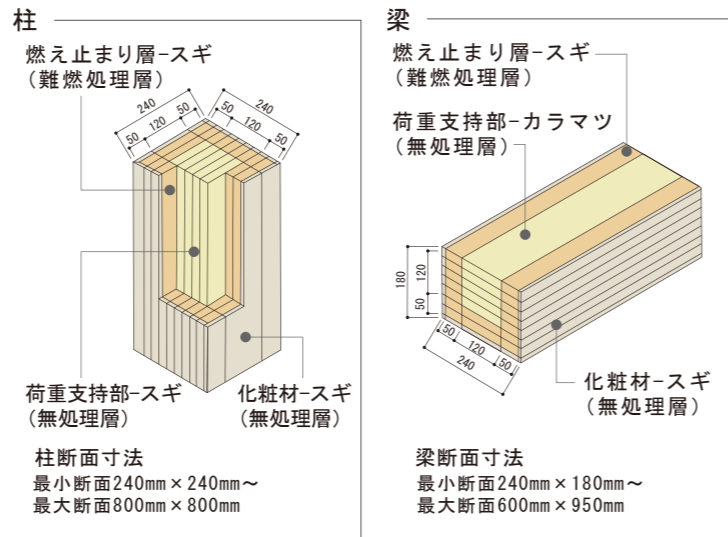


御社殿、随神門と調和し、新たな神田明神の風景をつくりだす

文化をはぐくむ境内の延長としての建築

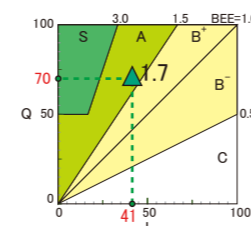
本計画は神田明神の創建千三百年の記念事業として、参拝者や観光客、さらに外国からの来訪者に日本の伝統文化を伝えることを目的とし計画された。1階に神札授与所やカフェ・物販店舗、2-3階にライブなどのパフォーマンスが観られる多目的ホール、4階に貴賓室、地下1階には日本文化の体験スペースからなる地下1階、地上4階の複合施設。各フロアには様々なアート作品が配され、連続と受け継がれてきた歴史の継承のみならず、多様な価値観を受け入れ、新たな文化を創出する交流の場を創りだしている。

「伝統と革新」というコンセプトのもと、その時々の文化を伝える姿として、建築自体が主張するのではなく、透明なガラスと力強い木フレーム越しに、その時代の文化やアクティビティが境内へと染み出すファサードとした。周辺地域に面する外装には、鎮守の杜の木々の揺らぎや重なりを表現したPCaコンクリートの外装、ホール内装は、随神門の赤と黒、肘木の持ち出しをイメージさせる木製ルーバーなど神田明神らしさを表現した。



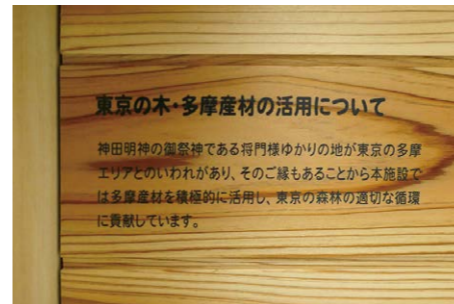
FRウッド® (純木質耐火集成材) の採用

構造部材にはFRウッド® (純木質耐火集成材) を採用。荷重支持部を特殊な薬剤を染み込ませた燃え止まり層で覆うことで、火災時の熱が伝達することを防ぎ、石膏ボードなどの不燃材を用いることなく優れた耐火性能を発揮する。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI 0.61	Aランク
竣工年	BEI (モデル建物法) 0.96	BEE=1.7
敷地面積	LCCO ₂ 削減 23 %	2016年度版 自己評価
数地面積		
延床面積		
構造		
階数		



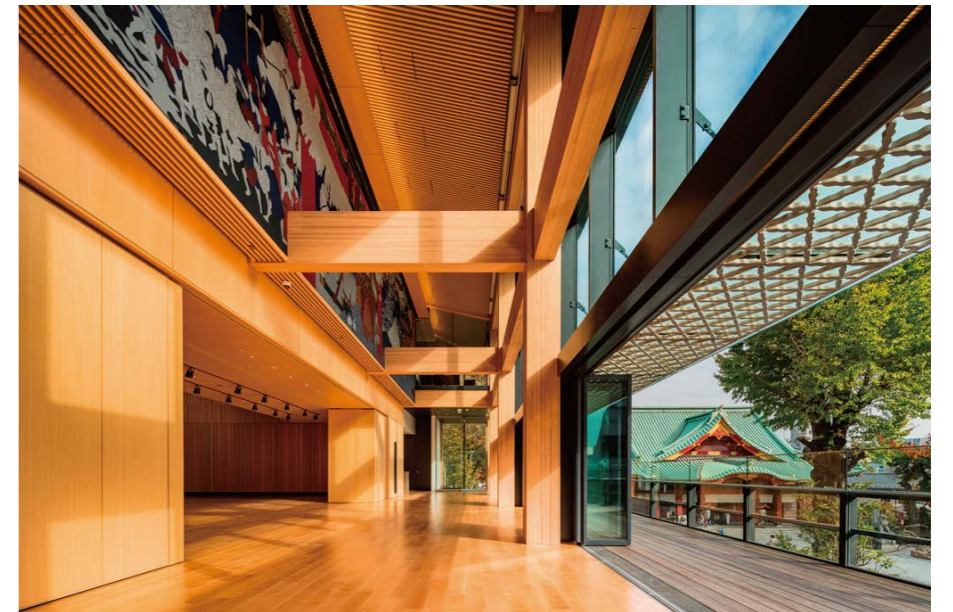
木造・木質化された空間が境内へと開き、境内が入り込む



東京・多摩産材の活用

参拝客が気軽に立ち寄れる1階カフェ・物販店舗の什器、2-3階ホワイエの柱・梁に使用する木材の大部分は、神田神社が祀る平将門公と縁が深い多摩地区のスギ材を使用。森・都市・人をつなぐ場を創りだしている。

多摩産材の利用拡大、東京の森の適切な維持管理・循環利用に寄与していることを明示し、多数の来訪者への情報発信と地域材に触れる機会の創出を図っている。



多摩地区の杉材を使用したホールとホワイエ

設計担当者
統括：篠田秀樹/建築：丸山琢、吉田清人/構造：上野正夫、中島康宏、藤井啓樹/設備：村川嘉彦、太田浩司、野口康仁/
インテリア：KAJIMA DESIGN、乃村工藝社 (物販店舗・和室部分) /外構：ランドスケープデザイン/照明デザイン：ゾネ

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (純木質耐火集成材の採用)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (鎮守の杜の再生：既存建屋の解体、周辺公園も含めた緑地整備)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (神社建築との調和)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (境内と連続した祝祭空間の形成)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (高性能ガラス、庇の深い外装、南面、西面の開口部抑制)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (周辺環境に配慮した外装計画)